



機械でこの部分を刺し血抜きをします(写真は解凍後のカツオ)

現在、刺し身用となるカツオは、船内で生きたまま瞬間凍結され、新鮮な状態を保ったまま水揚げされており、B1(ブライン凍結1級品)カツオとして販売されています。しかし、最近では価格の低迷、漁業コスト高など厳しい状況が続いており、枕崎市漁協としてもなんとか打開できないかと模索していました。そこで今回、メーカーが開発した『魚活き締め脱血装置』を試験的に「第三協洋丸」に搭載。マシヤル諸島付近で1か月ほど操業し、釣り上げたカツオ約320トのうち18トを船内で活き締めにした後ブライン凍結を行いました。活き締めは、釣ったばかりのカツオのえら付近を機械の歯で刺して、水槽で泳がせながら血抜きを行います。



活き締め装置の説明をされる立石光志自営部長

水揚げ翌日の31日に、水産センター2階において試食会が行われ、市漁協職員のほか行政関係者、かつお公社職員など約60人が参加しました。試食は、①従来のB1カツオ、②外海水温(30℃)の水槽で活き締め脱血したB1カツオ、③15℃の水槽で活き締め脱血したB1カツオの3種類を比較して行われ、参加者たちにはどのカツオかを伏せてアンケートを取りました。その結果、色、味、食感とも②・③の活き締めカツオが支持され、また食べたいという人数も大半を占めました。参加者たちからは、「もちもち感があり、匂いもなくおいしい」と好評でした。

活き締めB1カツオで 新たな挑戦

全国初、活き締めカツオを水揚げ

枕崎市漁協所属の遠洋カツオ一本釣り船「第三協洋丸」(499トン)が3月30日、枕崎漁港内港で全国で初めてとなる活き締めB1カツオを水揚げしました。この取組みが、漁業を取り巻く厳しい状況の打開策にと期待されています。



「なるほどおいしい」
試食会で関係者ら舌鼓

と発展に努めます。▼例規集デジタル化事業 4,305千円▼電算費(電算機器リース料ほか) 44,453千円

【推進体制】

組織機構：効率的な行政運営と組織機構のスリム化を図るとともに、社会情勢の変化や多様化する市民ニーズに対応するため、新年度からポランティア・NPOなど市民協働に関する部署を設置するなど組織機構を一部改めることといたしました。今後も、引き続き効率的・機能的な組織機構の検討を行います。

広域行政：一部事務組合のあり方や広域連合の可能性等について、引き続き南薩広域市町村圏協議会や各一部事務組合事務局、担当部署と連携して検討します。

行政の情報化：電子による行政情報の提供、申請・届出等の手続の電子化、文書の電子化等を推進し、市民の利便性の向上を図るとともに、情報資産に対する保護、防衛、安全の確保等セキュリティ対策に努めます。▼例規集デジタル化事業 4,305千円▼電算費(電算機器リース料ほか) 44,453千円

また、次期総合振興計画と連動し、次期「行財政改革実施計画」及び「財政計画」についても策定します。▼第五

次枕崎市総合振興計画策定事業 1,696千円

財政面：三位一体改革の影響により地方交付税等が大幅に減額されている状況の中、減額する歳入総額に耐えられる歳出構造にしていけることが急務であることから、先に策定した「新財政健全化目標」や「行財政改革実施計画」の具体的方策をスピードアップして着実に実行し、財政健全化に取り組んでいくことを第一に考えつつ、限られた財源を有効に活用できるよう、事業の重点化、効率化に努めます。

以上、新年度の施政に対する基本的な方針を述べましたが、これらの施策の実現については、住民福祉の向上を最優先とし、私以下全職員が一丸となり、研鑽努力を重ね、計画のかつ公正な執行を旨とする姿勢をもって対処する所存であります。何とぞ、議会をはじめ市民の皆さんに、より一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

矯正施設 誘致実現 ならず

枕崎市の活性化策の一つとして、平成15年度に続き昨年度も矯正施設(刑務所)の誘致に名乗りを上げ、決起大会の開催や各関係機関への働きかけなど、市内の経済団体や市民の方々とともに誘致活動を行ってまいりましたが、今回も誘致を実現することができませんでした。

法務省は3月25日、矯正施設整備の事業予定地として、島根県旭町を選定し、今回の刑務所新設計画は、平成15年度の2倍に当たる2,000人規模とすることを発表しました。選挙から外れた大きな理由として、候補地である枕崎空港敷地では必要な面積が満たせなかったことがあげられます。

神園市長より

これまでのご理解、ご協力そして様々な激励に対し心から感謝を申し上げます。誘致実現が適わなかったことはまことに残念ですが、2,000人収容の施設ですと、空港敷地ではその面積、形状が法務省要望を満たせません。

法務省からの通知とは別に特に電話をいただきました。枕崎市の努力と熱意については大きく評価するとともに深く感謝をしているとのことでした。

空港の今後については、当面現状のまま継続しながら様々な検討をしてまいります。

なお、この3年間の改革により、地方債(借り入れ)の返済分を除けば、歳出より歳入の方が多くなっており、第三セクターの南薩エポーク(株)もこの3年間で、収入が支出を上回るようになっていきますので、併せてご理解くださるようお願い申し上げます。